



わたしも大切、あなたも大切 ～人権週間～



今年もあとひと月、師走に入りました。校庭の木々も色づき、すでに 落葉が始まっています。もう、冬の準備を始めていることを感じられます。朝夕も冷え込むようになり、朝、子ども達からも「今日は寒いなあ。」と言う声が聞こえてくる季節になりました。

さて、人権週間が12月4日から始まります。今年の「第75回人権週間」では、啓発活動重点目標を「誰か」のことじゃない。」として、啓発活動を展開することになっています。

本校でも、「誰か」のことじゃなく、自分自身のこととして、一人ひとりが人権を尊重することの重要性を認識し、他人の人権にも十分配慮した行動をとることができるよう、人権に関する学習を行い、人権について考える機会をもちたいと考えています。

4年生では、講師に和歌山人権擁護委員協議会から人権擁護委員の方をお招きして、人権教室を行い、「いじめのない楽しい学校生活を送るためにはどうすればよいのか」について考えることができました。悲しい気持ちになっている子、心無い言葉をかける子、周りで見ている子等、様々な立場の人物が登場しました。子ども達は様々な立場の人物の心情を想像し、意見を出し合うことを通して、自分や相手を大切にしていくことを学ぶ時間となりました。子ども達の生活の中で見逃してはならないいじめ問題。子ども達の悩みや不安に寄り添うとともに、いじめは決して許されない行為であることを今一度しっかり指導していかなければと思います。

私たちはややもすると自分のことだけを考えてしまいがちですが、子ども達には周りの人を思いやる心を持ち、その心を形として表していくことが重要であること、周りの人を大切にすることは、自分自身を大切にするにつながることに気づいてほしいと願っています。

各学年・学級で、発達段階に応じて、大切なことは繰り返し言葉・表現を変えながら指導していきたいと思えます。ご家庭・地域におかれましても、同じスタンスで子どもへの指導にあたっていただければ幸いです。ご理解とご協力をお願いいたします。



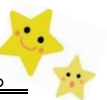
「学校開放月間（きのくに学び月間）」のご参観ありがとうございました。



学校開放期間中、のべ 160 名ほどの保護者や地域の皆様が、来校してくださいました。

ありがとうございました。子ども達が落ち着いて学習に向かう姿や一生懸命に指導する先生方の姿をご覧いただけたことと思います。今後とも、子ども中心の学校づくりを行っていきま。皆様のご協力をよろしくお願ひします。

学校保健安全委員会を開催しました。



11月16日（木）に本校6年生と校医や薬剤師の先生方にご出席いただき、学校保健委員会を行いました。子どもたちの質問に一つ一つ丁寧に答えていただき、今以上に健康で、よりよい生活を送ることができるよう必要のこと等を教えていただきました。また、薬剤師の先生は、薬について実験をしながらわかりやすくお話していただきました。



12月の行事予定

2日(土)土曜参観(わくわく集会)
うちどく

4日(月)振替休業日

5日(火)開校記念日(121周年)
4年生 地域探訪

6日(水)2年 研究授業
2年生 14:20 ごろ下校
2年生以外 13:20 ごろ下校

7日(木)歯科検診
漢字の博士試験(希望者のみ)

9日(土)市育友会第6部モルック親睦大会

12日(火)登校指導

14日(木)板金教室 6年

15日(金)安全点検

16日(土)子どもセンター「なわとび教室」

18日(月)ALT

19日(火)スクールカウンセラー

21日(木)給食終了

22日(金)2学期終業式

1月9日(火)3学期始業式

☆各行事が変更・中止になることがあります。ご了承ください。



12月2日(土) わくわく集会

日時: 9:30~10:30 ごろ

発表順: 4年 ⇒ 3年 ⇒ 1年 ⇒ 2年 ⇒ 5年 ⇒ 6年 ⇒ 3~6年合唱

・各自、上履き(スリッパ)、靴を入れる袋をお持ちください。

・バイク、自転車は、東門から入り、体育館北側に駐輪してください。

・通行の迷惑になりますので、学校付近の駐車はご遠慮ください

・感染症予防対策として、体育館の窓を常時開けます。防寒対策をしてお覧下さい。

・当日は4限まで、12時下校となります。学校でお待ちいただくことはできません。

なお、保護者様のお座席は、体育館後方(赤い三角コーンを結んだ線より後ろ)となります。混雑することが予想されます。譲り合ってください。

秋の深まる頃、風物詩の昆虫といえば、ミノムシを思い浮かべる人が多いと思います。でも意外とその特徴については良く知られていません。

そもそもミノムシとは、ミノガ科というグループに属する蛾の幼虫の総称で、日本で約40種類ほどが知られています。その中でもよく見かけるのが「オオミノガ」で、幼虫の体で冬を越します。

なかでもオオミノガの雌の成虫は、一生を蓑(みの)の中で過ごし、蓑の中で卵を産みます。孵化直後の幼虫は、まだ蓑をまとっていない裸の小さな幼虫。風に乗って分散し、着地した木の枝や葉の上で、葉や枝の表皮の断片を素材に、口から吐いた糸を使って最初の蓑を作ります。その後ミノムシは、身体の成長に合わせて、蓑素材の葉や枝の大きさを少しずつ替えながら、蓑を大きくしていきます。

でも近年、オオミノガは西日本を中心に激減しています。ほかの昆虫が寄生したのが一因、といわれています。

公園、人家の生垣、河川敷、街路樹など、人間が住むところでは、まだまだ見つけることができます。そうそう、学校の掲示板にも、たくさんミノムシ(1・2年生製作)が住んでいますよ。寒くならないうちに、カラフルな蓑をまとったミノムシをぜひご覧ください。

